

別紙 I

Stop TB Partnership(ジュネーブ) による 迅速評価 COVID-19 パンデミックによる結核への重大なインパクト(概括)

COVID-19 パンデミックとその関連対策が結核対策に与える影響について、20 か国の高結核負担国*の国家結核対策(NTPs)を対象に、自由回答形式の質問による評価を行った。

COVID-19 対策が、結核対策に重大な混乱をもたらしている。特に、結核の治療、ケア、その他支援を受けるのに苦闘している最も脆弱な人々に大きな影響を与えている。

*世界の結核負担の 54%を占める

ストップ結核パートナーシップとそのパートナーは、すべての政府とステークホルダーに対し、結核対策が中断なく継続されることを保証し、COVID-19 対策が、最も脆弱な人々が含まれる結核患者への診断、治療、ケア、その他の支援に悪影響を及ぼさないことを求めている。

NTPsからの主な所見

- 結核対策担当者は、全て COVID-19 対応に従事している。
- 結核対策担当者の 40%は、結核対策施設(病院、診療所)は、COVID-19 対応に活用されていると回答し、結核対策本部は、COVID-19 が更に拡大すれば、結核対策施設を最大限に活用することを想定している。
- 結核対策が影響を受けないよう最善を尽くしているが、状況は非常に困難になっている。
- 結核対策サービスの利用者数は減少している。
インド(リアルタイムで分析できる唯一の国)では、封鎖期間中の毎日の通知は、平均と比較して約 80%減少している。
 - ・ 封鎖と交通手段減少のために、人々は病院や診療所に行くことが不可能、もしくは避けている。
 - ・ 喀痰の輸送や様々な治療支援の提供が困難。
 - ・ 積極的症例探索(Active Case Finding)の停止。
 - ・ 治療遵守をモニターするデジタル技術を提供する時間がなかった。
 - ・ スタッフや診療スペースの不足
- 封鎖、制限等による計画されている様々活動の中断。
(GF にかかる活動、国家結核戦略計画の策定と承認、資金要請、トレーニング、社会的弱者への働きかけ等)
- 結核に関する研究の中断
- 対策に日常的に使用する物品の供給には大きな混乱はないが、将来的に以下の点に懸念がある。
 - ・ COVID-19 に利用可能な資源を投入する一方で、結核対策のための国内資金調達が制約。
 - ・ 輸入過程の混乱。
 - ・ 国内の流通及び倉庫の制限。
 - ・ 治療観察を異なるモデルに切り替える準備ができていない。

COVID-19 により、結核患者の死亡率が高くなることが予想され、結核患者、薬剤耐性結核患者の COVID-19 に対する脆弱性に懸念を示している。

病院も COVID-19 対応に回されるため、薬剤耐性結核の管理に大きな懸念がある。

膨大な仕事量による士気の低下、医療従事者の防護具の不足、現行および計画中の医療制度改革(融資制度の変更を含む)との整合性への懸念もある。

Global Coalition of TB Activists(GCTA)においても、16 か国の地域社会、市民社会、結核患者を対象に調査を行い、同様に COVID-19 が結核対策や結核患者に深刻な影響を与えていることがわかった。

調査対象国:アフガニスタン、バングラデシュ、カンボジア、カメルーン、コートジボワール、インド、インドネシア、カザフスタン、ケニア、モルドバ、モザンビーク、ネパール、ナイジェリア、ペルー、フィリピン、南アフリカ、タジキスタン、タイ、トルクメニスタン、ウガンダ、ウクライナ、ウズベキスタン、ベトナム、ザンビア、ジンバブエ。

2020 年4月 8 日 ジュネーブ

THE TB RESPONSE IS HEAVILY IMPACTED BY THE COVID-19 PANDEMIC

http://stoptb.org/news/stories/2020/ns20_014.html より概括。